

授業科目 (ナンバリング)	薬学英語 (N4A301)			担当教員	岸原 健二・黒川 健児・田中 宏光・ 藤井 佑樹・藤木 司・石原 知明		
展開方法	演習	単位数	0.5 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
薬学領域の研究や医療現場において使われる専門分野特有の用語や表現を理解し、薬剤師、薬学研究者、医療従事者としての将来において必要とされる英語能力を修得することを目標とする。							①⑤⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1) 医療・薬学に関する英文を読み、適切に訳すことができる。 (2) 病院や薬局で使われる基本的な英語表現を使うことができる。 (3) 医療・薬学に関する英語の専門用語や表現を理解することができる。				定期試験 課題・レポート	70% 10%	
情報収集、分析力	医療や薬学研究に関する課題に関して科学的根拠をもとに思考し、課題やレポートに取り組むことができる。				課題・レポート	10%	
コミュニケーション力	病院や薬局で使用する基本的な英会話を通して、英語を介したコミュニケーション能力を養う。				授業態度の観察	5%	
協働・課題解決力	次の授業のテーマを予習し、その内容について授業中にグループ内で討議することができる。				授業態度の観察	5%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業への積極的参加、課題・レポート、定期試験の成績をもとに、上記の観点別の配点に沿って総合的に評価されます。課題・レポートの評価は、ポートフォリオ等でフィードバックします。遠隔授業となった場合は、「コミュニケーション力」と「協働・課題解決力」の評価は行わず、「情報収集、分析力」の評価を20%とします。</p> <p>尚、成績評価に関しては、長崎国際大学の成績評価基準に準拠しています。</p>							
授業の概要							
<p>薬学英語の授業（演習）は、できる限り少人数のグループで一人一人が参加できる授業形態で行われます。履修者の一人一人が英語で書かれた医学・薬学関連の文章を読解し、その内容のグループ内で要約して理解を深めます。Small group discussion (SGD)による参加型授業を導入し、授業内容を共有化できるようにします。</p> <p>課題やレポートは、随時、担当教員から指示に従って下さい。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：担当教員編集のテキスト「Pharmaceutical English 2018 TEXTBOOK(1)(2)」(二分冊)，専門用語集「知っておきたい専門英語表現」(初回授業時に配布予定) ※ただし、遠隔授業の場合は、各担当者が講義資料(テキスト)を事前にポートフォリオにアップロードします。</p> <p>指定図書：薬学英語入門〈プライマリー薬学シリーズ1〉日本薬学会(編)(東京化学同人)</p> <p>参考書：現場ですぐに役立つ! 看護・医療スタッフの英語 山本マーガレット著(朝日出版社)</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>テキスト中の日程表を参考に実施される各授業のテーマを予習して、授業の概要を事前に把握しておいて下さい。</p> <p>また、授業で行われる少人数のグループディスカッション(SGD)にも積極的に参加して下さい。随時、出される課題・レポートは、必ず期限内に提出して下さい。</p> <p>※オフィス・アワーは、授業開始時に通知しますが、在室中は基本的に対応するので、各担当者の研究室を訪ねて質問して下さい。(薬学研究棟：岸原 P103, 黒川 P403, 田中 P206, 石原 P402, 藤井 P106, 藤木 P104)</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習 [#]	到達目標番号*
1	専門英語表現の解説	薬学を構成する学問分野、薬局方の表現、人体の名称、医療分野でよく使われる接頭辞・接尾辞などを学び、専門英語表現を理解する。(岸原)	専門用語集の予習・復習	PRE32/PRE35
2	薬学英语 Introduction	医療現場で扱う薬剤や自然科学に関する専門用語の英名やその語源、発音について学ぶ。(藤井)	TEXTBOOK 演習 No. 1 の予習・復習	PRE33/PRE36
3	薬学英语 Practical	プリント内に英語で記載されている薬剤の名前、薬理作用などの特性を調べ、グループ毎に発表を行い薬物についての理解を深める。(藤井)	TEXTBOOK 演習 No. 2 の予習・復習	PRE33/PRE36
4	The Origins of Virology	ウイルス学者必携の「Fields Virology」から第1章「The Origins of Virology」の一節を読み、ウイルス学黎明期の開拓者達の活躍を学ぶ。(黒川)	TEXTBOOK 演習 No. 3 の予習・復習	PRE33/PRE36
5	Cancer	2001年ノーベル賞受賞者の Tim Hunt が Andrew Murray と著した「The Cell Cycle, an introduction」から第9章「Cancer」の一節を読み、がんとがん遺伝子について学ぶ。(黒川)	TEXTBOOK 演習 No. 4 の予習・復習	PRE33/PRE36
6	Culture of animal cells	ネズミの組織からの初代培養細胞の分離法について学ぶ。(田中)	TEXTBOOK 演習 No. 5 の予習・復習	PRE33/PRE36
7	Small-Scale Preparations of Plasmid DNA	大腸菌からの簡便なプラスミド DNA の抽出法を英語の原著から理解する。(田中)	TEXTBOOK 演習 No. 6 の予習・復習	PRE33/PRE36
8	Biological defense system in organisms(1)	生体防御機構に関する英文を読み、免疫系のうち、(1)では皮膚と粘膜、自然免疫（非特異的な生体防御機構）について学ぶ。(藤木)	TEXTBOOK 演習 No. 7 の予習・復習	PRE33/PRE36
9	The Science of Drug Abuse and Addition	薬物乱用や薬物常用に関する科学的見地から書かれた英文を読み、その実態や問題点を学ぶ。(石原)	TEXTBOOK 演習 No. 8 の予習・復習	PRE33/PRE36
10	Medicines for the Future	ヒトの全ゲノム配列が解読され、遺伝子に基づく新しい医療が始まろうとしている。近未来の医療と薬に関する知見を学び、理解を深める。(石原)	TEXTBOOK 演習 No. 9 の予習・復習	PRE33/PRE36
11	Induced Pluripotent Stem Cells	人工多能性幹細胞（iPS 細胞）に関する基本情報を英文で読み、その原理や基礎知識を学び、再生医療への応用に関して討議する。(岸原)	TEXTBOOK 演習 No. 10 の予習・復習	PRE33/PRE36
12	On-the-Job English for Medical workers	《医療従事者の実用英語》医療従事者が使う英語表現や英会話（基本問診、病歴や症状たずねる、薬の指示など）を学び、現場で利用できる英語能力を高める。(岸原)	TEXTBOOK 演習 No. 11 の予習・復習	PRE40/PRE41
13	定期試験	筆記試験（60分）		

注) 上記の第1回～第12回は、授業の概要を示したもので、演習の順番ではありません。

[#]TEXTBOOK の演習 No. は、演習日程に伴い変更するので、その変更は初回授業の時に通知します。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SBO 番号／項目対応表を参照して下さい。